

ISSN 0912-778X

穂別町立博物館館報

第13号

平成7 (1995) 年度

穂別町立博物館

目 次

●	沿	革(p.1)
●	施 設 の 概 要(p.4)	
●	施 設 平 面 図(p.4)	
●	展 示 活 動(p.5)	
●	収 蔵 資 料 概 要(p.6)	
●	資 料 収 集 保 存 活 動(p.6)	
●	調 査 研 究 活 動(p.8)	
●	普 及 教 育 活 動(p.10)	
●	運(p.12)	

「この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されたものである。」

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見がきっかけとなって建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

I 「建設の目的」と「展示更新」 の基本的考え方

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉(昭和55(1980)年11月26日)

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開基70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈展示更新の基本的考え方〉(平成2(1990)年6月27日)

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたと

きの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

II 沿革

昭和50(1975)年6月

穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部採集。発見者：荒木新太郎氏(穂別町在住)。

昭和51(1976)年9月

佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町立仁和小学校)、荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員(国立科学博物館)に鑑定依頼。

昭和52(1977)年2月

長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認。

昭和52(1977)年7月5～8日

「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この標本を「ホベツアラキリュウ」標本と命名。

- 昭和53(1978)年5月
「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング
(剖出)作業開始。
- 昭和53(1978)年11月
穂別町立郷土資料館，開館(旧・穂別町立さく
ら保育所施設利用)。
- 昭和54(1979)年5月
長頸竜化石骨，穂別町指定文化財第2号に指定。
- 昭和55(1980)年10月16日
「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足。
- 昭和56(1981)年3月13日
施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博
物館に変更。
- 昭和56(1981)年7月～12月
博物館建設工事開始。
- 昭和56(1981)年9月1日
鈴木 茂学芸員就任。
- 昭和57(1982)年1月16日
長頸竜復元作業開始。
- 昭和57(1982)年3月～6月
博物館展示工事行われる。
- 昭和57(1982)年7月20日
博物館開館。一般公開開始(初代館長：今幸太
郎教育長兼任)。
- 昭和57(1982)年8月26日
「博物館協議会」発足。
- 昭和57(1982)年11月1日
北海道博物館協会加入。
- 昭和57(1982)年12月19日
長頸竜復元骨格展示公開。
- 昭和57(1982)年12月19日
特別展「よみがえるクビナガリュウ」開催。
- 昭和58(1983)年3月2日
博物館法による登録博物館となる(北博登第28
号)。
- 昭和58(1983)年3月27日
「穂別町立博物館研究報告」刊行開始。
- 昭和58(1983)年3月28日
「博物館協力会」設立。
- 昭和58(1983)年4月1日
日本博物館協会加入。
- 昭和58(1983)年4月28日
菅原康次(第二代)館長就任。
- 昭和58(1983)年7月22日～8月7日
収蔵資料展「地図展」開催。
- 昭和58(1983)年8月1日
全国科学博物館協議会加入。
- 昭和59(1984)年2月
村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊。
- 昭和59(1984)年6月14日
第二展示室(町立博物館保存庫)完成。
- 昭和59(1984)年11月1日～4日
収蔵資料展「古い写真・古い文書展」開催。
- 昭和59(1984)年12月1日
桜庭勝美(第三代)館長就任。
- 昭和60(1985)年3月30日
「穂別町立博物館館報」刊行開始。
- 昭和60(1985)年5月1日
地徳 力学芸員就任。
- 昭和60(1985)年11月1日
特別展「北海道一億年」開催。
- 昭和61(1986)年10月21日
特別展「穂別の自然」開催。

昭和62(1987)年1月1日 今幸太郎(第四代)館長就任(教育長兼任)。	平成2(1990)年9月3日～5日 レイド, M. G. 氏(アルバータ州ティーレル古生物学博物館)来館。
昭和62(1987)年7月28日 特別展「アンモナイトの系図」開催。	平成2(1990)年12月31日 野田藤雄(第六代)館長就任(教育長兼任)。
昭和63(1988)年7月17日 第三展示室(保存庫)完成。	平成3(1991)年4月1日 佐藤 稔(第七代)館長就任。
昭和63(1988)年8月23日 特別展「穂別のカメ化石」開催。	平成3(1991)年4月28日, 29日 入館者10万人突破記念事業。
昭和63(1988)年10月6日 今 幸太郎(第五代)館長就任(専任)。	平成4(1992)年2月1日 展示更新工事開始。
平成1(1989)年6月30日 仲谷 英夫氏(香川大学助教授):長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表。	平成4(1992)年4月23日～25日 カリー, P. J. 氏(アルバータ州ティーレル古生物学博物館)来館。
平成1(1989)年7月18日 特別展「穂別のむかし」開催。	平成4(1992)年4月29日 展示更新完了, 一般公開再開。
平成1(1989)年9月29日～10月6日 学芸員, カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣。	平成6(1994)年4月1日 野田藤雄(第八代)館長就任(教育長兼任)。
平成2(1990)年7月23日 ドラムヘラー市長夫妻(カナダ, アルバータ州)来館。	平成6(1994)年4月1日 川上源太郎学芸員就任。
平成2(1990)年8月18日 特別展「戦争と穂別」開催。	平成7(1995)年7月15日～9月12日 学芸員, カナダ・アルバータ州ティーレル古生物学博物館に派遣, 研修。

*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」あるいは「ホベツアラキリュウ」などの使い分けを行っているが、以下に従っている。

「長頸竜」: 動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式。

「首長竜」: 分類学上の名称としては適切ではないが、この場合「発掘調査団」の固有名称として使用。

「クビナガリュウ」: 正式には「蛇頸竜目」または「長頸竜目」あるいはそのカタカナ綴りにするべきであるが、通俗名として普及しているために本の題名として用いられたのであるから、この場合固有名称として使用。

「ホベツアラキリュウ」: 昭和52(1977)年7月5～8日に「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された標本の名称。

●施設の概要

【位 置】

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

【工 期】

昭和56年度～57年度

【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建（本館）

建築面積：*1,100m²

*第二・第三展示室は10月17日に廃棄

【総事業費】

3億7,276万5,000円

【展示更新】

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事。

平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作。

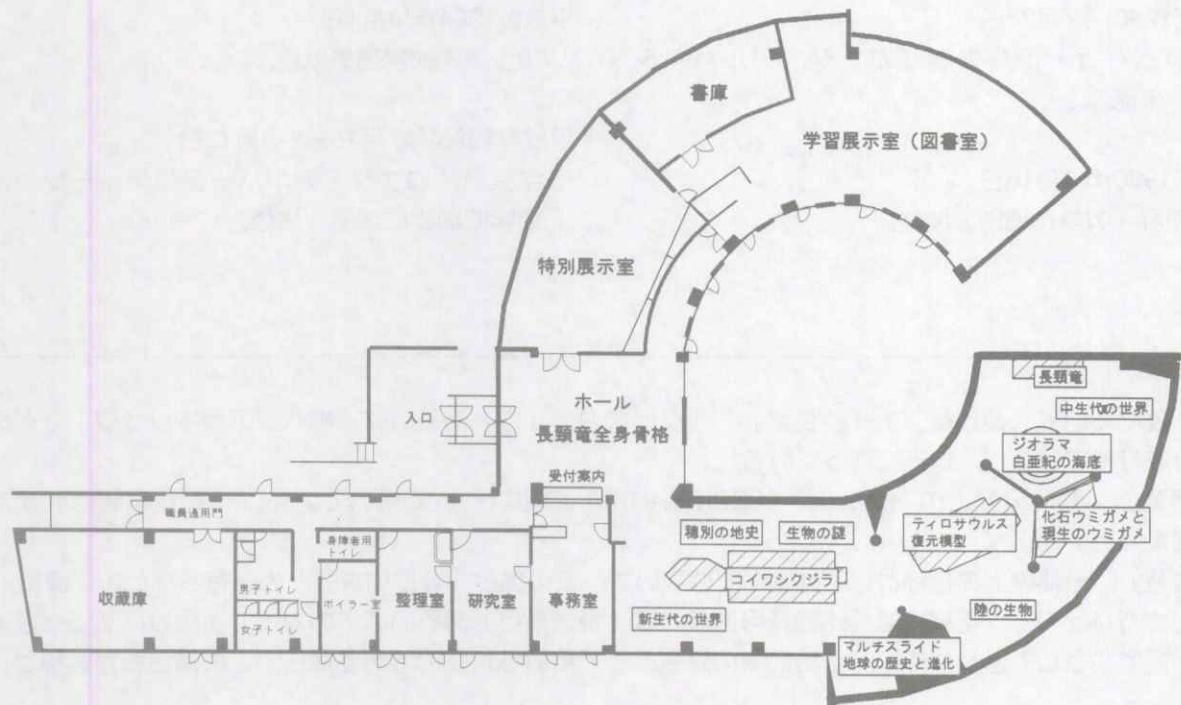
【更新事業費】

平成3年度～4年度：99,910,000円（内消費税 2,910,000円）

平成5年度：6,890,700円（内消費税 200,700円）

常設展示室	372.88m ²
特別展示室	99.08m ²
収蔵庫	86.56m ²
事務室	40.50m ²
研究室	31.50m ²
整理室	29.92m ²
学習展示室	184.75m ²
書庫	35.05m ²
共用部門	219.76m ²

●施設平面図



● 展示活動

I 特別展示

諸般の事情により平成7(1995)年度の特別展示は実施できなかった。

II 常設展示

【学校週休二日制記念事業】

学校週休二日制実施にあわせて町民無料観覧を実施。毎月第二土曜日を町内の児童生徒無料観覧の日とする。

【博物館開館記念日関連事業】

7月20日の開館記念日に関連して、平成7(1995)年7月15日(土)~7月21日(金)を町民無料観覧の日とした。

【常設展示資料】

長頸竜化石	11点
モササウルス	7点
カメ化石	9点
魚竜化石	1点
魚類化石	7点
頭足類化石	86点
巻貝化石	27点
二枚貝化石	40点
掘足類化石	3点
甲殻類化石	9点
ウニの化石	5点
クジラの化石	8点
デスモチルス化石	4点
マンモスの化石	1点
植物化石	2点
霊長類化石	7点
岩石その他	27点
計	254点



新種として記載・公表された、ホベツケントリオドン(*Kentriodon hobetsu*)の頭骨
(中新世の化石イルカ)

【博物館特定入館日に伴う町民無料入館者利用状況調べ】

実施日	行事名	一般	小・中・高生	計
'94.4.1~'95.3.31	学校週5日制(年24回実施)	11	186	197
7.15~21	博物館開館記念日(7日間)	24	11	35
9.15	敬老の日	12	3	15
11.3	文化の日	17	12	29
11.23	勤労感謝の日	17	5	22
1.15	成人の日	4	1	5
計	延べ35日	85	218	303

(単位:人)

●収蔵資料概要

【自然史系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	177	2	18	197
処 理 中	1	0	0	1
貸 出 中	10	0	0	10
収 蔵 庫	839	4	6	849
計	1,027	6	24	1,057

【人文系資料】

収蔵場所	資料数
常 設 展 示 室	0
収 蔵 庫	3,586
貸 出 中	6
計	3,592

(いずれも1996.3.31.現在；未登録資料は除く)

【自然系資料】

収蔵場所	動物	植物	その他	計
常設展示室	1	0	0	1
貸 出	20	0	0	20
収 蔵 庫	33	23	0	56
計	54	23	0	77

●資料収集保存活動

平成7(1995)年4月1日～平成8(1996)年3月31日の寄贈・採集資料を順に記した。(敬称略)

I 寄 贈

【自然史系資料】 27件

アンモナイト	1点	小西堅三
ノ ジ ュ ー ル	1点	笠巻袈裟男
カメの卵(複製)	1点	長岡静夫
アンモナイトほか	多数	博物館協力会
巻き貝の化石	1点	笠巻袈裟男
カラストンピ	1点	千歳化石会
アンモナイトほか	4点	白亜紀化石会
アンモナイト	1点	千歳化石会
クジラ脊椎骨化石	1点	渋谷隆明
アンモナイト	2点	岩田正敏
アンモナイトほか	7点	千歳化石会
アンモナイト	3点	千歳化石会
巻 貝 化 石	3点	千歳化石会
モサザルズ椎骨・ウミウリ	2点	岡田寛秀
ノ ジ ュ ー ル	1点	千歳化石会
骨 化 石	1点	河崎元也
アンモナイトほか	5点	白亜紀化石会
イノセラムスほか	5点	千歳化石会
骨 化 石 ほか	5点	白亜紀化石会
アンモナイトほか	10点	千歳化石会
植 物 化 石	1点	笠巻袈裟男
アンモナイトほか	多数	博物館協力会

二 枚 貝 化 石	1点	博物館協力会
ノ ジ ュ ー ル	2点	千歳化石会
デスモスチルス歯化石	3点	熊野純男
アンモナイト	1点	阿部利春
アンモナイト	1点	城戸章

【自然系資料】 5件

シ カ 頭 骨	1点	高橋義道
ミ ン ク	1点	穂別中学校
哺乳類頭骨	1点	鎌田義明
ツ グ ミ	1点	岩田トヨ子
カ ケ ス	1点	村上隆

【その他】 2件

地質学系学術文献	多数	佐々保雄
ビデオテープ	1点	村上隆

II 採 集

【自然・自然史系資料】*主なもののみ

04月22日	稲里	骨化石ほか
04月25日	キウス	骨化石
04月27日	キウス	植物化石・腕足類化石ほか
05月04日	長和	サメ椎骨化石
05月09日	稲里	サメの歯
05月12日	稲里	サメの歯
06月24日	豊進	植物化石

07月23日	安住	骨化石
08月17日	長和	植物化石
09月18日	浜厚真	ネズミイルカ遺体
10月03日	富内	植物化石／イノセラムス密集砂岩
10月12日	長和	巨大イノセラムス
10月20日	長和	サンゴ化石

Ⅲ 資料の貸出

平成7(1995)年4月1日～平成8年3月31日

アンモナイト・イノセラムス：穂別地球体験館，
2点

平成7(1995)年4月1日～平成8年3月31日

人文系資料：みどりと文芸の館：富内，6点

平成7(1995)年4月1日～平成8年3月31日

自然系資料（剥製）：穂別町立穂別小学校，20
点

平成7(1995)年5月11日～平成8年5月10日

ウミガメ化石：帝京平成大学平山 廉博士，3点
平成7(1995)年6月20日～7月20日

人文系資料：穂別町立和泉小学校，4点
平成7(1995)年7月19日～10月19日

アンモナイト・イノセラムス：地質調査所地質
標本館利光誠一博士，11点

平成7(1995)年7月27日～9月2日

クビナガリュウ（化石・複製）：虫類ナウマン
象記念館，3点

平成7(1995)年9月27日～10月3日

クビナガリュウ・アンモナイト：第7回全国生涯
学習フェスティバル，3点

平成7(1995)年10月6日～11月20日

クビナガリュウ（化石・複製）：苫小牧市科学
センター，6点

平成7(1995)年10月24日～12月10日

人文系資料：穂別町立富内小学校，4点

平成7(1995)年11月3日～11月8日

人文系資料：穂別町立稲里中学校，3点



大型イノセラムス化石回収作業（1995. 7. 5. 穂別町長和にて）

I 脊椎動物化石の研究

【総論】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 47-52.

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1990] 穂別町立博物館研究報告, [6], 37-35.

[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)夜間小集会口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)一般発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【デスモスチルス】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 11-23.

[1984] 地団研専報, [28], 51-61. (松井 愈・山口昇一 共著)

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 51-62.

赤松守雄(北海道開拓記念館)学芸員に研究委託

公表論文・講演:

[1984] 地団研専報, [28], 63-68.

【クジラ】

木村方一(北海道教育大学)教授に研究委託

一島啓人(オタゴ大学)氏に研究委託

公表論文・講演:

[1992] 穂別町立博物館研究報告, [9], 37-44.

[1994] The Island Arc, [3], 473-485.

[1992] The island Arc, [3], 486-492.

【ウミガメ】

平山 廉(帝京平成大学)講師に研究委託

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 17-30.

(鈴木 茂 共著)

[1992] 穂別町立博物館研究報告, [8], 17-57.

[1992] 日本地質学会第99年学術大会(熊本)口頭発表

[1993] 日本地質学会第100年学術大会(東京)口頭発表

[1994] 地団研専報, [43], 17-24. (地徳 力 共著)

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)口頭発表

[1994] 日本地質学会第101年学術大会(札幌)夜間小集会口頭発表

【長頸竜】

中谷英夫(香川大学)助教授に研究委託

公表論文・講演:

[1981] 日本地質学会第88年学術大会(東京)口頭発表

[1982] 日本地質学会第89年学術大会(新潟)口頭発表

[1982] 動物と自然, 12, 11-16.

[1984] 穂別町立博物館研究報告, [1], 37-40.

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 43-49.

[1989] 穂別町立博物館研究報告, [5], 43-48.

[1989] 日本古生物学会報告・記事, [154], 96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂(林原自然科学博物館学芸員, 元穂別町立博物館学芸員)氏が研究

公表論文・講演:

[1985] 穂別町立博物館研究報告, [2], 31-42.

[1985] 地学団体研究会専報, [30], 45-66.

地徳 力(穂別町立博物館)学芸員が別資料の研究継続

公表論文・講演:

[1987] 日本地質学会第94年学術大会(大阪)口頭発表

[1990] 日本地質学会第97年学術大会(富山)口頭発表

[1990] 日本地質学会北海道支部報, [1], 45-46

[1991] 穂別町立博物館研究報告, [7], 9-14. (紀藤典夫 共著)

[1994] 穂別町立博物館研究報告, [10], 39-54.

【サメ】

久家直之,京都大学大学院院生に研究委託

公表論文・講演:

[1985]穂別町立博物館研究報告,[1],33-36.

【翼竜】

地徳 力(穂別町立博物館学芸員)

公表論文・講演:

[1994] 日本地質学会北海道支部総会講演

[1996] 穂別町立博物館研究報告,[12],17-22.

II 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第12号, 13頁:平成7(1995)年7月1日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第12号, 24頁:平成8(1996)年3月30日発行

<著者及び論文題名>

Tatsuro Matsumoto and Seiichi Toshimitsu : 1-8

頁

A phylloceratid ammonite species from the Maastrichtian of the Hobetsu district, Hokkaido. (Studies of the Cretaceous ammonites from Hokkaido-LXXVIII)

川上源太郎:9-15頁

研修報告—カナダ, ティレル古生物学博物館の博物館活動

地徳 力:17-22頁

北海道遠別産, 翼竜の頸椎

III 参加学会・博物館協会研修会

平成7年4月1~3日:日本地質学会第102年学術大会
(広島)

平成7年9月27~29日:北海道博物館協会・学芸職員部会研修会(苫小牧市博物館)

●普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業無し。

【化石クリーニング教室】

学校その他の団体で要望があった際に、随時開講とした(Ⅲ その他を参照)。

II ホッピーだより(博物館広報)

【内容】

125号(平成7(1995)年4月)

「博物館に協力いただき、ありがとうございました。一寄贈資料の報告一」

126号(平成7(1995)年5月)

「地球科学の時代(8)一生命の誕生2一」

127号(平成7(1995)年6月)

「地球科学の時代(9)一生命の誕生3一」

128号(平成7(1995)年7月)

「地球科学の時代(10)一初期の生命一」

129号(平成7(1995)年8月)

「地球科学の時代(11)一初期の生命2一」

130号(平成7(1995)年9月)

「地球科学の時代(12)一初期の生命3一」

131号(平成7(1995)年10月)

「カナダ研修旅行報告一その1一」

132号(平成7(1995)年11月)

「カナダ研修旅行報告一その2一」

133号(平成7(1995)年12月)

「カナダ研修旅行報告一その3一」

134号(平成8(1996)年1月)

「1995年をふり返る～博物館活動報告～」

135号(平成8(1996)年2月)

「進化論って何? ～“種”の概念～」

136号(平成8(1996)年3月)

「ホバツケントリオドン～新種と判明～」

III その他

【穂別町教育研究会理科サークル】

平成7(1995)年6月16日:穂別町新任教職員(10名)館内研修

【穂別町新任教職員町内研修】

平成7(1995)年6月23日:穂別町新任教職員(2名)館内研修

【化石採集会】

平成7(1995)年7月5日:札幌市立真駒内曙小学校6年生(114名)化石採集指導

【北海道開拓記念館巡検案内】

平成7(1995)年10月1日:巡検参加者に、化石採集指導(於 穂別町福山)

【化石クリーニング教室】

平成7(1995)年10月29日:鷗川町地域子供会育成連絡協議会、化石クリーニング指導(47名)

【千歳化石会講演会】

平成7(1995)年11月26日:「カナダ研修旅行一ティレル古生物博物館と恐竜化石発掘」講演

【カナダ研修旅行報告会】

平成7(1995)年11月29日:「カナダ研修旅行一ティレル古生物博物館と恐竜化石発掘」講演

【町内教育・福祉団体の利用】

平成7(1995)年6月29日:穂別町立和泉小学校5・6年生(9名)

平成7(1995)年7月17日:穂別町立富内小学校4年生(7名)

平成7(1995)年9月13日:穂別町立穂別中学校3年生(6名)

平成7(1995)年9月14日：穂別町立穂別中学校3年生(35名)

平成7(1995)年11月4日：穂別町立穂別中学校特殊学級(3名)

【町外教育・福祉団体の利用】

平成7(1995)年5月：

12日：長沼町立中央長沼中学校1年生(124名)

13日：北海道大学理学部地球惑星科学科1年生(18名)

16日：道立札幌平岸高等学校1年生(464名)

26日：夕張市立幌南中学校1年生(17名)

平成7(1995)年6月：

8日：道立砂川南高等学校1年生(246名)

11日：茨城県水戸市立第4中学校2年生(37名)

14日：道立北広島西高等学校1年生(440名)

平成7(1995)年7月：

5日：札幌市立真駒内曙小学校6年生(122名)

13日：苫小牧市立明野中学校2年生(180名)

18日：恵庭市立柏陽中学校2年生(170名)

19日：苫小牧市立弥生中学校2年生(84名)

25日：恵庭市立恵庭小学校(22名)

28日：道立身体障害者リハビリセンター(32名)

平成7(1995)年8月：

4日：厚別区民センター，ジュニアリーダー研修会(113名)

10日：室蘭ピノキオ幼稚園(65名)

22日：札幌市立真駒内中学校(45名)

25日：新冠町高齢者大学(109名)

28日：道立札幌手稲高等学校PTA(29名)

平成7(1995)年9月：

6日：道立岩見沢西高校1年生(245名)

9日：札幌市宮ノ丘幼稚園(76名)

9日：学校法人景盛学園(69名)

21日：幕別町立札内南小学校(86名)

平成7(1995)年10月：

1日：洞爺村立洞爺小学校6年生(36名)

4日：新冠町立東川小学校(18名)

12日：門別町立東郷小学校(24名)

28日：夕張市立滝ノ上小学校PTA(15名)

平成7(1995)年11月：

15日：門別町富川ひばり幼稚園(42名)

16日：門別町富川ひばり幼稚園(62名)

28日：門別町富川ひばり幼稚園(28名)

平成8(1996)年3月：

17日：滝川シレニア会(42名)



化石採集指導(1995.7.5. 穂別町キウスにて)

I おもなできごと

平成7(1995)年4月：

- 4日：地球体験館新人ガイド研修(2名)
- 9日：早川浩司学芸員(三笠市立博物館)来館
- 11日：日本文芸社取材
- 19日：田近 淳博士(道立地下資源調査所)ほか(2名)来館
- 20日：HBCラジオ取材
- 30日：博物館協力会化石採集体験用地柵囲作業

平成7(1995)年5月：

2日：高橋功二博士・宿田浩司氏(和光技研(株))来館

6日：斎藤玲子学芸員(北海道立北方民族博物館)来館

平成7(1995)年6月：

1日：道南バス苫小牧営業所バスガイド研修(3名)

平成7(1995)年7月：

13日：佐々保雄博士(北海道大学名誉教授)寄贈資料搬送

15日～9月12日：川上学芸員補, カナダ・アルバータ州ドラムヘラー市, ティーレル古生物学博物館にて研修

31日：東海大学相模高校末包教諭ほか(2名)来館

平成7(1995)年8月：

8日：胆振支庁地域政策室長来館

30日：飯塚博士(北海道大学農学部教授)ほか(2名)来館

平成7(1995)年9月：

3日：胆振教育局長ほか(2名)来館

8日：北海道市町村課職員(5名)来館

13日：糸魚川淳二博士・奥村好次学芸員両氏(瑞浪市化石博物館)来館

平成7(1995)年10月：

8日：川村信人博士(北海道大学)ほか(2名)来館

平成7年(1995)年11月：

2日：亀井節夫博士(京都大学名誉教授)ほか(4名)／西田治文博士(国際武道大学)ほか(2名)来館

11日：胆振東部5町文化交流会(29名)来館

28日：高橋興世学芸員・松原 淳氏(黒松内町

ブナセンター)来館

平成8(1996)年1月：

29日：北海道新聞社・苫小牧民報社取材

30日：北海タイムス社・室蘭民報社取材

平成8(1996)年2月：

2日：毎日新聞社取材

平成8(1996)年3月：

13日：地球体験館新人ガイド研修(3名)

7～8日：北海道博物館協会学芸職員部会役員会(小樽)

II 町外自治体などの視察

平成7(1995)年4月：

15日：苫小牧市アイスアリーナ建設準備室(3名)視察

平成7(1995)年8月：

2日：宮崎県北諸県郡三股町教育委員会(20名)視察

28日：古平町教育委員会(7名)視察

平成7(1995)年10月：

27日：赤井川村村議会(15名)視察

平成7(1995)年11月：

22日：江差町役場(17名)視察

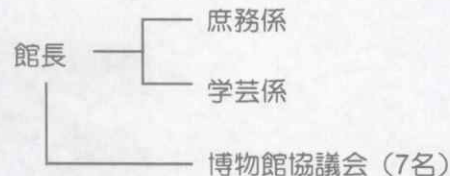
平成8(1996)年2月：

4日：豊浦町教育委員会(15名)視察

平成8(1996)年3月：

22日：胆振管内社会教育主事研修会(12名)

III 組 織



職員名簿(平成8(1996)年3月31日現在)

館 長 野 田 藤 雄
 庶務係長 中 井 学
 庶 務 係 佐 藤 貞 子
 学芸係長 地 徳 力
 学 芸 員 川 上 源 太 郎

博物館協議会委員(平成8(1996)年3月31日現在)

会長 荒木 新太郎
副会長 小石川 武美
委員 久保田 瑞真
委員 谷口 弘
委員 藤江 保徳
委員 村上 隆

1名欠員

(平成8(1996)年7月31日まで)

IV 利用状況

【常設展示観覧者】

平成7(1995)年4月～平成8(1996)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	935	333	1,268	25
5	3,382	1,818	5,200	26
6	915	929	1,844	25
7	2,134	1,434	3,568	31
8	4,289	2,509	6,798	30
9	1,330	738	2,068	23
10	1,337	406	1,743	24
11	493	125	618	23
12	67	27	94	23
1	27	8	35	18
2	70	30	100	23
3	252	108	360	25
計	15,231	8,465	23,696	296

(単位：人・日)

V 博物館使用料収入

区分	有料入館者数	使用料
一般	個人	13,088
	団体	1,558
学生	個人	5,171
	団体	2,955
合計	22,772	4,902,850

(単位：人・千円)

VI 平成7年度予算

費目	予算
報酬	84
共済費	245
賃金	4,076
報償費	385
旅費	1,301
需用費	6,388
役務費	507
委託料	4,728
使用料及び賃借料	1,135
工事請負費	51,400
原材料費	150
備品購入費	5,561
負担金補助及び交付金	163
博物館費合計	76,123

(単位：千円)

VII 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

月曜日・祝日の翌日・毎月月末・年末年始
(12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一般	*学生
個人	300円	100円
**団体	200円	50円

注：未就学児童は無料(要大人の付添い)

* 学生：小・中学生・高校生

**団体：10人以上

【減免】

「(穂別町立)博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない(穂別町立博物館設置条例、第6条)」が「(穂別町)教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる(同条例、第7号)」。
減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

穂別町立博物館施行規則 第6条例第7条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

(教育目的)

1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合

(研究目的)

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合

(福祉目的)

3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合

(公益目的)

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

Ⅶ アンケート集計結果

穂別町立博物館では、これまでに1986年・1987年の2回にわたって、観覧者へのアンケートを実施した。

その後、1991～1992年には展示更新を行い、自然史系の専門館として、大きな変更がなされた。また、1991年には穂別地球体験館が博物館に隣接して建設された。

以上のように、穂別町立博物館を取り巻く情勢はここ4・5年で大きく様変わりしていることから、あらためて観覧者の動態をつかみ、博物館に対する意見・批判を頂くことが、今後の博物館運営の改善に重要であると思われる。

なお、前2回のアンケートはいずれも夏期の繁忙期に限定して実施したが、今回の調査は1995年2月～10月の9ヶ月間にわたっている。ただし、ここ数年の繁忙期(ゴールデンウィーク・夏期)の観覧者数の急激な増大(地球体験館オープンの影響によると思われる)のため、混雑時(休日や団体客の入館日)にはアンケートが実施できなかったことを最初に断っておく。また、前回調査結果との比較は、“回答不明”分を抜いて再計算して行っている。

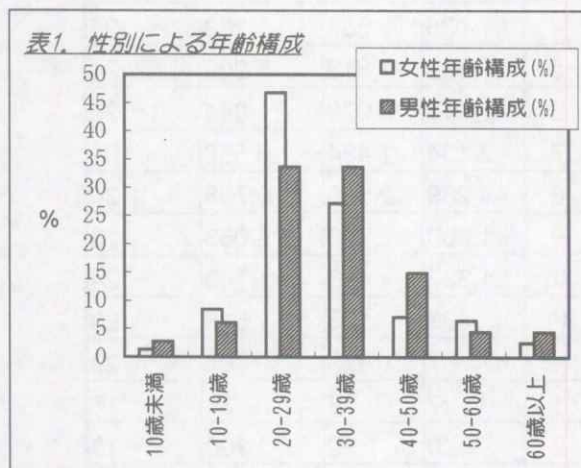
・アンケート実施日 1995年2月～10月
・総回答者数 381名

【回答者性別内訳】

男性	48%
女性	41%
不明	11%

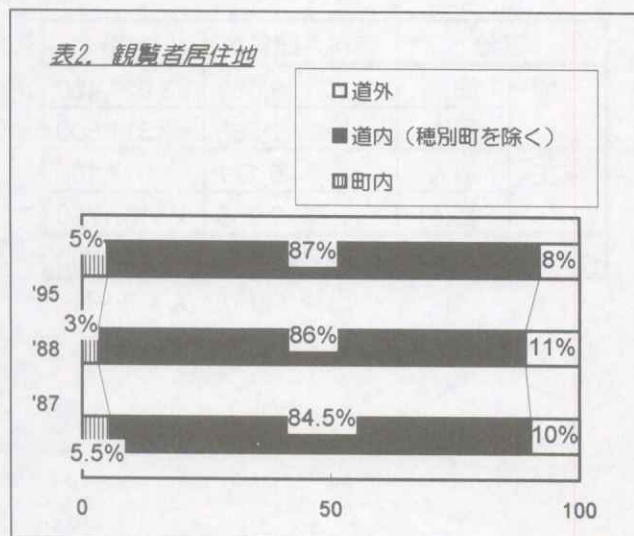
【性別による年齢分布】回答368名

前回調査結果と同様の結果となった。すなわち、女性は20代の観覧者数が多く、40代以降の観覧者が少ない。



【観覧者居住地】回答373名

表2に前2回の調査結果とあわせて示したが、特に顕著な変化は認められない。



【観覧者居住地（道内分・町内分は除く）】回答
324名

表3（順位は95年度のもの）

順位	地域	87年度(%)	88年度(%)	95年度(%)
1	札幌	27.08	26.37	43.21
2	苫小牧	22.92	19.52	10.19
3	帯広	2.92	1.71	4.01
4	千歳	1.25	2.40	3.70
5	室蘭	5.00	4.11	3.40
6	広島	-	1.03	2.78
7	旭川	0.83	2.05	2.47
7	登別	3.33	2.05	2.47
9	恵庭	1.25	-	2.16
10	江別	1.25	3.08	1.85
11	門別	2.50	1.71	1.54
11	石狩	0.83	1.71	1.54
11	釧路	2.08	0.34	1.54
11	新冠	0.83	1.37	1.54
11	静内	1.67	1.03	1.54
16	岩見沢	-	1.71	1.23
16	小樽	0.83	1.37	1.23
16	白老	0.42	2.05	1.23
19	平取	2.50	1.37	0.93
19	追分	-	0.34	0.93
	その他	22.50	24.66	10.49
	合計	100.00	100.00	100.00

表4（上位12位までの前2回の順位と、対人口比*1000）

順位	地域	87/88年度順位	対人口比*1000
1	札幌	1/1	8.1
2	苫小牧	2/2	19.8
3	帯広	7/12	7.6
4	千歳	15/7	14.5
5	室蘭	3/4	9.6
6	広島	-/21	17.4
7	旭川	20/9	2.2
7	登別	5/9	14.1
9	恵庭	15/-	11.6
10	江別	15/5	5.6
11	門別	8/12	36.0
11	石狩	20/12	9.8

表3に上位20地域について、前2回の調査結果からの変化を示した。表を見れば一目瞭然であるが、札幌市在住者の占める割合が大幅に増加している（+17ポイント）。一方で、苫小牧市在住者はその割合を大きく下げている（-9ポイント）。同様な傾向として、札幌圏の千歳市・広島町在住者が増え、胆振地域の室蘭市・登別市在住者が減少している。

人口動態ゆえの結果か、地球体験館のオープン、あるいは国道274号線の福山－稲里間の開通により、

休日の人の流れが変化しているためかもしれない。

しかし、表4の対人口比を見ると、胆振地域や千歳市・広島町・恵庭市など、近隣の比較的交通のアクセス（国道・道道）の便利な地域が高い割合を示している。

*居住地については、回答者数が370人程度のアンケートの結果であること、団体分（95年度で対総観覧者数比16%）が含まれていないことから、おおよその目安としてとらえている。対人口比の算出は道民手帳95年度版によった。

【質問1】回答372名

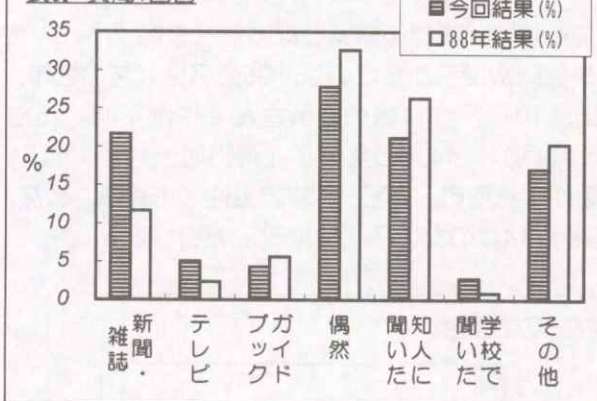
穂別町立博物館をどのようにしてお知りになりましたか？

前回調査結果と変わらず、“穂別町へ別の用事で来て偶然”という回答が多かった（表5）。“その他”と回答した中にも、“車で移動中に道路の看板（地球体験館の？）を見かけて”という偶然の理由によるものを含んでいる。また“その他”の中には“穂別町在住だから／もと穂別町民だから”といった回答も含んでいる。

ここで重要なのは、新聞・雑誌やテレビなどのマスメディアを通じて知った人の割合が、10ポイント近く増えていることである。

研究活動を通して収集された資料の概要が、マスメディアにより紹介され、博物館の知名度が上がっていることは、嬉しいことである。

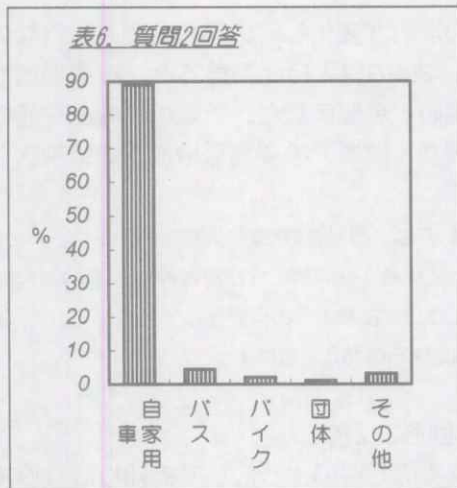
表5. 質問1回答



【質問2】回答377名

今日の交通手段は？

前回調査結果とほとんど変わらない（次頁の表6）。北海道の交通事情、町の公共交通機関の事情、一般社会状況などを考えれば当然の結果である。



【質問3】 回答374名
博物館への道順はすぐに分かりましたか？

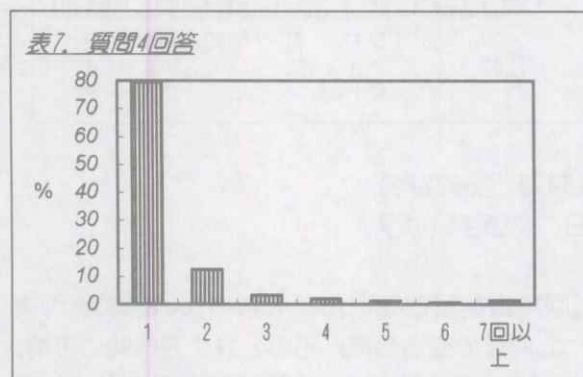
はい	86.6%
いいえ	13.4%

前回調査では、“わかりづらかった (14.8%)”、“途中で人に聞いた (21.0%)”であった。今回は“はい”と“いいえ”の二者択一で回答してもらったが、“いいえ”が13.4%となった。

現在町内 (市街部) では道路整備が行われているので、今後改善するだろう。

【質問4】 回答372名
穂別町立博物館に来たのは何回目ですか？

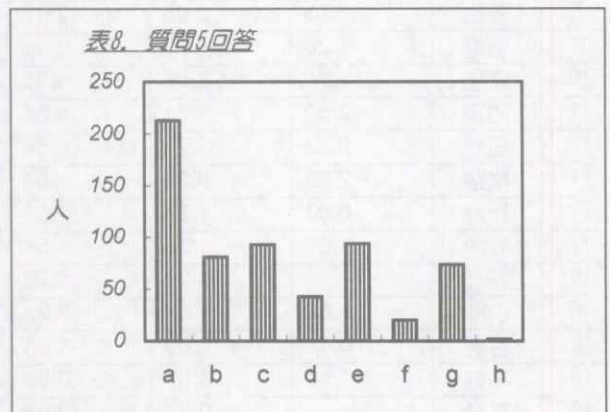
前回調査と同様の結果となった (表7)。
来館回数が多かったのは、35歳男性 (苫小牧市, 教諭, 10回), 11歳の子供さん (性別不明, 穂別町, 10回), 14歳の女の子 (穂別町, 10回), 61歳男性 (穂別町, 7回), 32歳男性 (千葉県, 教諭, 6回), 14歳の女の子 (穂別町, 6回) など。



【質問5】 回答363名, 総回答数620
展示の中で何がおもしろかったですか？ (複数回答可)

最も多かったのは化石標本で213名。ビデオ“穂別町地質構造発達史”, ビデオ“クビナガリュウ物語”, マルチスライド“地球の進化と生命の歴史”, ティロサウルス復元模型がほぼ同数となっている。

人気がなかった展示物は, ビデオ“甦るクビナガリュウ”, ジオラマ「白亜紀の海底」であった。



- a. 化石標本
- b. ビデオ「穂別町地質構造発達史」
- c. ビデオ「クビナガリュウ物語」
- d. ビデオ「甦るクビナガリュウ」
- e. マルチスライド「地球の進化と生命の歴史」
- f. ジオラマ「白亜紀の海底」
- g. ティロサウルス復元模型
- h. その他

【質問6】 回答69名, 総回答数81
展示の中でよくないと思うものをあげてください。 (複数回答可)

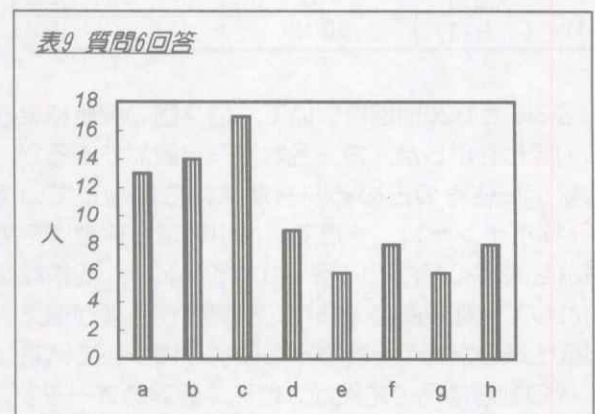


表9のa-hの凡例は、表8と同じである。皆さん遠慮をされたのか、回答者数が少なかった。最も多かったのは、ビデオ“クビナガリュウ物語”で17名である。理由としては“長いから(7名)”が多く、他のビデオにも同じ理由があげられていた。

【質問7】 回答222名

展示の解説はどうでしたか？

84%の人が“普通～良かった”と回答している。いくつか要望・意見を頂いたので紹介すると、

- ・もっと平易に(10)
- ・もっと詳しく(6)
- ・順路やコーナーの区分をわかりやすく(3)
- ・絵(復原図のことか?)を増やして(2)

などである。ご意見を記入してくださったのは、多くが20～30代の若い人達であった。

【質問8】 回答226名

展示の仕方はどうでしたか？

89%の人が“普通～良かった”と回答している。要望・意見を紹介しますと、

- ・順路やコーナーの区分をわかりやすく(6)
- ・もっと資料数を増やして(4)
- ・もっと詳しく(2)
- ・現生の近縁の生物との比較がいい(2)
- ・アンモナイトの中身が見れるのがいい(2)
- ・復原図を増やして(1)
- ・流れが分かりやすかった(1)
- ・実物が多くてよかった(1)
- ・触れるのがいい(1)
- ・すっきりしていていい(1)
- ・アンモナイトが多過ぎる(1)

などである。質問7の回答と重複するものもあるが、同一人物による重複回答は1名分のみで、カウントからは除いてある。ご意見を記入してくださったのは、やはり多くが20～30代の若い人達であった。

【質問9】 回答252名

館内の雰囲気はどうでしたか？

93%の人が“普通～良かった”と回答している。要望・意見を紹介しますと、

- ・さびしい感じ。もっと資料数を増やして

というものがあつた。

【質問10】 回答269名

館内の室温や明るさはどうでしたか？

78%の人が“普通～良かった”と回答している。悪いと答えたなかで、“寒い(8名)・暑い(10名)”は館の設備上の問題であり、今のところこれ以上改善できない。

“暗い”と答えた人が10名いたが、“明る過ぎる”と答えたのは1名であった。館内全体についての意見か、一部の資料が暗くて見にくいのか、回答からは読み取れない。一部の資料が、その形態とケースの設計の都合上、やや暗くて見にくいのは我々も認識している。今後改善していきたい。

【自由意見】 回答100名

穂別町立博物館に対する期待・要望をいただいた。主なものを紹介しますと、

- ・資料をもっと増やしてほしい(29)
- ・もっと楽しく(動くもの・マンガで解説など)(7)
- ・PRをもっとしてください(6)
- ・研究課程の展示(化石の採集・クリーニングなど)(3)
- ・もっと詳しく(2)
- ・地質の解説がほしい(1)
- ・本・二次資料などが閲覧できるといい(1)
- ・地球環境についての解説(1)
- ・個性を持った、世界中から人の集まる博物館になってほしい(1)
- ・大切に資料を保管して、将来の子供たちに受け継がせてほしい(1)

など。

【考察】

多くの方が展示資料の増加を望んでくださっていることは、博物館としても嬉しいことである。ま

た復元骨格や復原図などを求める声も多かった。

館としては、1. 物理的なスペースの問題、2. 展示をすっきりさせたいという方針から、展示資料数をできる限り少なくしている。物理的スペースの問題さえ解決すれば、館の資料の蓄積を考えると、展示資料数を増やし、より多角的な展示を行うことは十分可能である。

展示解説に対する様々な要望（もっと詳しく、もっと平易に、もっと短い時間で、もっと楽しくなど）は、コンピューターによる対話形式の解説システムの導入により、柔軟に対応でき、観覧者個々の意向に沿った解説を提供できるだろう。

順路やコーナーの区切りがはっきりしない点に

ついては、観覧券とともに配布しているパンフレットに簡単な案内図を載せているにも関わらず、6名の回答があった。物理的なスペースが足りないことも影響している（あまり固定しすぎると、日常的な展示資料の追加・変更などが行いにくくなる）が、今後改善していきたい。

また“PR活動をもっと積極的に行ってはどうか”，という意見を多く頂いたが、質問1の回答からもわかるように、地道に研究活動を続けその成果を公表していくことが、何よりも博物館をPRする上でもっとも正当な方法だと思われる。今後より一層研究活動を充実させ、館内展示に生かしていきたい。

穂別町立博物館館報

第13号

平成7(1995)年度

発行 1996年7月1日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

〒053 苫小牧市柏木町1丁目16番9号

TEL (0144) 72-8400

